



デカンタ型遠心分離機

○本社所在地：
千葉県千葉市若葉区上泉町424-18

○事業概要：
排水処理と汚泥処理のプランニング
IHIデカンタ式遠心分離機のレンタル
各種水処理機材のレンタル

○常時使用する従業員：28名(2025年2月期)

○現在の売上高：23.5億円（2025年2月期）

○法人番号：5040001014552

○Web：https://seisui-kk.com/

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ

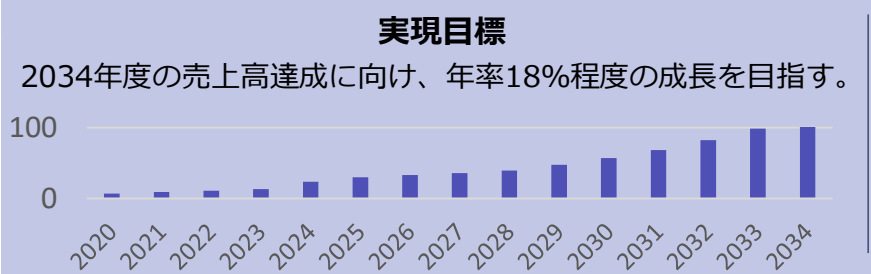


代表取締役
井本 謙一

仮設水処理技術で世界に存在する社会課題解決に貢献

私たちは仮設水処理技術を強みに、設備のメンテナンス時の一次対応や、災害復旧、処理量の急増といった緊急ニーズに応えてきました。**現場の「今すぐなんとかしたい」**に応える中で、**売上は毎年1.3倍に成長し、経常利益率40%**という高水準を維持しています。仮設水処理は、コストや時間のかかる本設備導入までの「**つなぎ役**」として、企業や自治体のインフラを支えてきました。現在はDXの推進や認知向上に取り組みつつ、多様なニーズに応える機器の拡充や、人材育成に力を入れています。私たちは100億円企業となり、安定したサービス提供を通じて地域社会のインフラ維持に貢献してまいります。

売上高100億円実現の目標と課題



- 課題**
- ・設備投資・専門技術を持つ人員体制の強化
 - ・技術開発と事業拡大
 - ・WEB発信と認知度向上

売上高100億円実現に向けた具体的措置

- 目指す成長手段**
- ・**設備投資・専門技術を持つ人員体制の強化**
仮設処理機器の増強と専門人材の採用・教育体制を整備。レンタル機器の在庫管理体制も強化し、現場対応力と全体の運用効率を高める。
 - ・**技術開発と事業拡大**
東芝との提携によるHabuki導入や高機能装置により仮設水処理を高高度化。営業・見積業務のデジタル化を進め、全社的な業務効率を向上。
 - ・**WEB発信と認知度向上**
施工事例や技術情報をWEB等で発信し、業界内外での認知を拡大。災害・除染分野への対応力を訴求し新規受注を促進。

- 実施体制**
- ・経営企画部を中心に、営業・技術・管理部門が連携し、**月次報告・四半期KPI評価**を通じた進捗管理を実施
 - ・現場即応力を高めるため、**処理機器の増強とSV（スーパーバイザー）人材の育成を推進**。デジタルツールを活用し、営業～管理までの業務効率を向上
 - ・Habukiを活用した仮設水処理の高機能化により、高付加価値案件への対応力を強化。**東芝との連携**により新規提案の幅を拡大

自由記載（例：売上高100億円実現に向けた具体的措置）

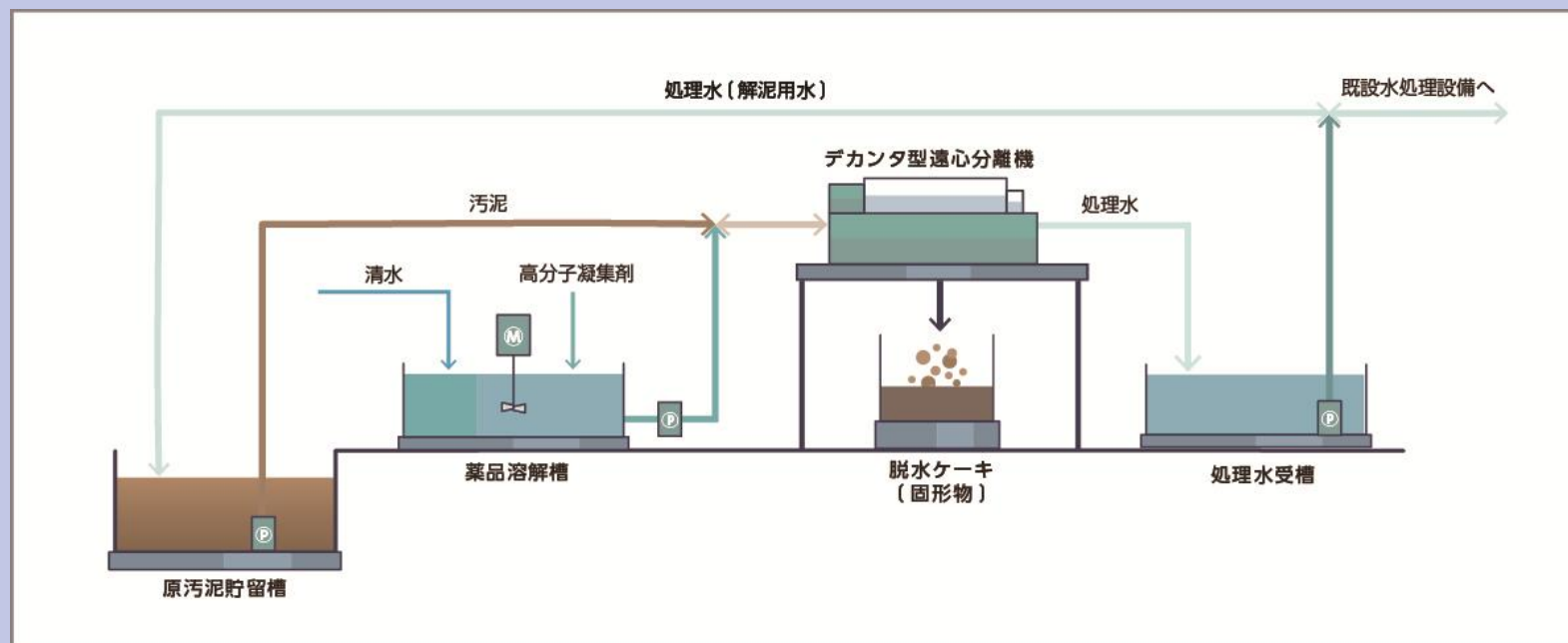
1.セイスイ工業の仮設水処理とは？

仮設水処理とは、**必要なときに現場に応じた水処理機能を一時的に**構築する仕組みです。水処理設備の改修期間中や大量の排水や汚泥が一時的に発生する現場、災害後の復旧対応など、通常に対応が難しい現場で利用されています。

まず、現地を確認し原水の調査をおこない、最適な処理方法と必要な機器を組み合わせた仮設水処理プラントの**設計**をします。さらに**納入・設置・試運転まで一貫対応**し、運転中も状況に応じたサポートをおこないます。すべての処理が終われば、機器の**撤去**まで責任をもって対応します。

汚泥処理においては「**汚泥脱水機**」が極めて重要な役割を担います。セイスイ工業では、**80台以上の脱水機**を自社で保有し、**整備もすべて社内に対応**しています。さらに「砂」や「し渣」を除去する装置や薬注装置など、処理に必要な補機を揃えており、現場ごとに最適な構成で対応できます。

柔軟な発想と技術力と判断力が問われる分野であり、**現場の「今すぐなんとかしたい」**という課題を解決する重要な技術です。



自由記載（例：売上高100億円実現に向けた具体的措置）

2. 仮設水処理の市場性

日本の多くの水処理施設は、高度経済成長期に一斉に整備されました。あれから50年以上が経ち、老朽化は避けられない問題となっています。しかし、施設を停止せずに改修を進めるには、技術的な制約に加え、莫大な費用と長い期間が必要になります。実際、設備の不調や処理能力の低下といったトラブルが発生しても、バキュームカーなどによる応急対応では限界があります。一時的な対応にはなっても、根本的な解決にはつながらないのが現状です。

こうした中、注目されているのが「仮設水処理」という選択肢です。仮設水処理とは、必要なときに必要な場所へ柔軟に設置できる水処理設備のことです。既存施設の補助として活用することで、改修期間中の処理機能を維持できます。

当社はこれまで、仮設の汚泥脱水機を使った汚泥処理を中心に事業を展開してきました。現場に応じた処理システムを柔軟に提供し、企業や自治体のさまざまな課題解決を支援してきました。

そして2024年度、当社は東芝との提携により、新たに仮設の排水処理機器を導入しました。これにより、従来の汚泥処理だけでなく、排水処理を含む幅広い分野で仮設水処理の提供が可能となりました。

放射性物質を含む汚染土壌や特殊な排水の処理といった、専門的な現場にも柔軟に対応できるように独自の技術開発もおこなっています。

仮設技術を活用した水処理は、これからの社会インフラを支える重要な手段です。当社は今後もこの分野の可能性を広げ、水処理に関わるさまざまな課題に応えていきます。

3. 100億円企業への成長戦略

当社は2020年度から2024年度まで毎年売上1.3倍の成長を実現し、経常利益率40%を維持。老朽化施設の改修支援、災害復旧、除染作業などの社会的課題に対応しながら、さらなる成長を目指します。

100億円企業としての強み

資本力の強化：大型案件に対応可能な設備投資の拡充

技術力の向上：最先端の水処理技術の導入による競争力強化

社会貢献の拡大：災害復旧やインフラ整備支援を広範囲で展開

仮設水処理を通じて高付加価値を提供し、社会インフラの安定に貢献する企業として、持続的な成長を実現します。